

**千歳利三郎（自民 舞鶴） 99.9.30**

### 1、交通網の整備について

電化高速化されたJR舞鶴線が、10月2日から開業。今後は、こうした鉄道網や京都縦貫自動車道を十分活用し、府北部地域の発展に役立てることが重要。引き続き、JR小浜線の電化事業は、舞鶴市民の長年の悲願であり、早期実現が必要と考えるが、今後の見通しはどうか。JR舞鶴線について、積極的かつ長期的な利用促進は、

（知事） JR小浜線の電化は、府も舞鶴市とともに福井県とともにJR西日本と要望、協議している。実現については、明るい結果が得られるものと期待している。速やかに具体化できるように努力している。JR西日本は民間鉄道会社、採算が重要。利用促進が不可欠、舞鶴綾部は積極的な取り組みがされている。

### 2、舞鶴港の整備について

一昨日、岩田議員、大橋議員からも要望なり、質問なりがあったが地元議員としてもう少し詳しく聞く。きびしい経済状況の中で特に公共事業の見直しが強く求められている。港湾海岸事業とて例外ではない。このたびの件は、舞鶴港を管轄する運輸省第三港湾建設局で再評価原案を作成し、運輸省港湾局長あて報告されたものが、公共事業改革等推進本部で了承され公表されたもの。再評価原案の要旨は、現況の社会経済情勢を勘案し、事業の一部完成時期を予定通りとする。すなわち、今、工事中の14メートル岸壁1バースとそれに必要な臨港交通施設の整備事業は継続する。それと、これ以降の事業については、今後の貨物量の動向を見極めつつ、事業を実施する、しております。しかし、先日この件に関するマスコミの報道は「舞鶴港和田埠頭の施設規模縮小」とのタイトルが付けられたため、我が国に112港ある重要港湾のうち、舞鶴港だけが槍玉にあげられた感がする。ことの重大さに驚いた第三港湾建設局長が、府民への誤解を解くために、今月の初め荒巻知事と江守舞鶴市長のところにお詫びと説明に訪づれ、その時の説明内容を聞くと、事業計画を見直しするとは、一挙に全体計画分の施設を整備するのではなく、現在建設中の14メートル岸壁1バースと関連道路の早期供用にむけて努力することが、事業実施効果のてんからも合理的であり、そのまま継続するというので、その他の14メートル岸壁1バース、及び12メートル岸壁2バース等の施設については、社会経済情勢を見極め、段階的に整備を進めていきたいとのことで、港湾機能を早期に拡張整備するための方策と時期を検討しなおしたものであって、計画の見直し、縮小、凍結など全く考えていないとのことであります。共産党は、わが意を得たりとばかり、終始一貫取り扱い貨物量の過大な見積もりによる無駄な公共事業だと言い張っていますが、港湾計画策定以降この10年間における環日本海諸国の国家体制や経済システムの激変と国内及び世界的な不況による港湾貨物の著しい停滞を誰が予測し得たでしょうか。高い目標を掲げ、ある程度リスクを覚悟で、ダイナミックな活動を展開する自由経済主義者と70年に及ぶ実験の結果、何ら得るところのなく消滅した計画経済の信奉者との考え方の相違以外に説明する言葉はありません。鉄道の電

化高速化と自動車道の延伸が進み、充実する陸上輸送と大量高速輸送を強いられる海上輸送の重要な結節点である港湾の拡充整備やトータルな公共投資の有効活用の面からも停滞がゆるぎされない。平成元年、多目的クレーンが稼働し始めてから、10年間で、他の貨物が減少している中、コンテナの取り扱いだけが増えて、当初の6倍にもなっている。現在の第二埠頭の他目的クレーン一機では、今後の貨物量増大、さらに取り組まれている中国航路の開拓、景気次第で台湾航路やナホトカ航路が再開されれば、さらに大量コンテナの円滑な処理が難しくなる。第二埠頭の多目的クレーン以上のコンテナ荷役能力が期待されるクレーンが和田埠頭の完成に合わせて整備されることは、これからのポートセールス、航路開拓の大きな力になる。おたずねするが、今回の運輸省の見通し発表を災いを転じて福となすようできないものか。また港湾整備に対応するいっそうの集荷増大、港湾活用策はあるのか。

**(商工部長)** 舞鶴港の集荷対策。知事が会長を務めている舞鶴港振興会が今年7月韓国のソウルで舞鶴港利用促進セミナーを開き、50社を超える参加。舞鶴港交流フェスタ99を10月29日から3日間開催し、舞鶴港の重要性を理解してもらい、対岸諸国との経済交流の促進をはかる機会に。京都市内から舞鶴港までの運賃を無料にすることにより、利用の拡大をはかるため、名神南インター付近に民間の協力を得て開設された、インランドデポ（貨物の取り次ぎ所）の利用促進などもはかりながら、新規航路の開拓など利用の拡大につとめる。

**(土木建築部長)** 和田埠頭について 運輸省の再評価結果については、一昨日の知事答弁にもあったように、港湾計画の見直しや施設規模の縮小といったものではなく、段階的に進めていくということであり、事業の継続が認められた。和田埠頭の進捗状況であるが、現在14メートル水深の岸壁および周辺護岸の一部が海上に姿を見せ、今後外周構造物の工事、その後、浚渫、埠頭用地等の増設に取り組む。臨港道路は、舞鶴市の協力で用地買収に積極的に取り組み成果を上げている。陸域から和田埠頭への連絡橋は本年度詳細設計を実施している。

### 3、森と水防災について

- ①舞鶴市の上水道を取水している由良川の良質な水の確保のため、水源地域の森林整備を
- ②由良川に注ぐ中小河川、異常降雨の影響を受けやすく土砂の堆積が著しい。堆積土砂の除去を

**(農林部長)** 由良川地域の森林は府内の森林面積の6割強の約220,000ヘクタール。六分の一39,000ヘクタールが水源涵養保安林、流量調整、洪水の防止、用水の確保に役立っている。特に重要な20地区約22,000ヘクタールについて、治山ダム建設や森林の整備を行っている。生活用水を集落に供給している森林は、府独自の水源の森整備事業で取水機能を備えた治山ダムも建設している。森林の水源涵養機能を維持管理するためには地道な管理と多額の費用が必要。治山事業などの公共事業を積極的に活用し、水源地域の整備につとめる。

**(土木建設部長)** 河川内の堆積土砂の除去は順次実施している。舞鶴市域の由良川に注ぐ河川については、今年度も実施している。